

伊勢みずほの うだったのJA! ぞて

JA 柏崎
vol.10

柏崎では、稲作に加えて園芸作物を栽培する農家さんや農業法人が増えています。その背景には栽培を強力にすすめるためのJAの後押しがありました。

協力体制の構築で 園芸作物の栽培促す

JA 柏崎管内は稲作中心の兼業農家が多く、稲作より手間がかかる園芸作物の栽培はなかなか増えませんでした。田村農産も、当初は稲作中心でしたが、サトイモやカリフラワー、切り花など多種多様な園芸作物の栽培を進めることで、従業員を増やしています。田村文夫代表は「園芸作物を育てることで通年の仕事と収入ができました。園芸作物は日々成長し顔が変わります。それを見るのが楽しみです。世話の大変さより面白さの方が大きいです」と魅力を語ります。さらにJA 柏崎では、作業を機械化しやすいタマネギや枝豆など8品目を重点作物として栽培を推奨。それらの作物を集荷場へ持ち込めば、袋詰めなどの作業や出荷をJA 柏崎が担うなど支援を充実させたことで、園芸作物栽培に取り組む生産者が増えました。



(右から)小林調査役、細谷さん、春日さん、田村代表。「園芸作物の栽培を始めて毎日楽しい」と話す田村代表の表情から農作物への愛情が伝わってきました。



田村農産のハウスには、さまざまな園芸作物の苗に加え、見事なブドウ棚もありました。たわわに実った房に思わず笑みがこぼれました。

また、市内小中学校の給食に米や野菜を供給しています。「地場産の作物は、子どもはもちろん、管理栄養士さんからも好評です」とJA 柏崎営農指導課で学校給食を担当する細谷麻莉乃さん。生産者が子どもたちと一緒に給食を食べる機会もあり、参加した田村農産の春日知代さんは「おいしそうに食べる姿を見ると本当にうれしい」と励みにしていました。JA 柏崎営農指導課の小林智和調査役は「市民の皆さんにPRし、もっと地場産の作物を食べてほしいです」と話していました。

みずほの一言
JA 柏崎では、子どもたちの農業体験などにも力を入れています。こういった経験の場が広がると、地産地消の素晴らしさがもっと伝わると思います。



JAグループからのおすすめわけ
本特集へのご意見・ご感想を募集しています。投稿いただいた中から毎月抽選で旬のJA特産品をお送りします。ハガキもしくはHPの特設ページから応募ください。

JAグループ新潟

JAグループ新潟

〒951-8116 新潟市中央区東中通一番町189番地3
JA新潟中央会 総務企画部「そうだったのJA!」係 TEL 025-230-2010